令和6年度　浜松市立北浜北小学校　学校だより

北心だより

令和6年7月2日　NO.4

学校教育目標

夢に向かって　輝き合う子

子供がたくましく、自立できるように私たち大人ができること

私たち大人は、子供たちより長く生きている中で、様々な人生経験を送っています。その中で、成長したこと、楽しかったこと、辛かったこと、困ったことなどいろいろなことがあったと思いますが、失敗して学んだことも多いと思います。ところが、親になった今、自分の子供に、「こうすれば、失敗しないで済む。」と先回りして、口を出し過ぎてしまうこともあるのではないでしょうか。また、「大人になったら…」という言葉を使い、子供に話をし過ぎてしまうことはないでしょうか。こんなことを書いている自分も、その一人です。

そんな中、野球講演家である年中夢球氏が書いたはっとさせられる記事を見つけたので、保護者の皆様とも、一緒に考えていきたいと思ったので、紹介させていただきます。

「挫折という経験を知らない子や、挫折に気づかなかった子は、カラカラに乾いた木です。ちょっとしたことでポキリと折れてしまう。一方でたくさん泣いて、たくさん汗をかいてきた子は湿った木であり、折れそうでなかなか折れません。」

「なんでも親や指導者が指示したり強制したりして従わせるだけだったら、子供は自分で判断しなくなってしまいます。グラウンドで一瞬のプレーを決断するのは、選手自身。野球だけでなく、人生すべてにおいて自立するためにも、挫折をきっかけに自ら考え、決める力をつけてほしいと思っています。」

「親は、今この瞬間の失敗をさけようとするのではなく、あるいは見張るのではなく、将来にわたって強く生き抜く力を育むためにも、挫折こそ「大きく成長できる機会」だと捉えたい。そのためにも、親が先回りして、考える力を奪わないでほしい。親は見張るのではなく、見守ってあげてほしい」。そして、こう続けた。

「家は子供にとって基地です。エネルギーをたくわえる場所。あたたかいお風呂、あたたかい食事、あたたかいお布団。なにより、あたたかい言葉で子供を迎え、見守ってあげてください。」

私たちも、子供の頃のいろいろな失敗を通して、自分で気付いたり、周りの大人に気付かせてもらったりして今があります。何でも失敗しないように先回りして教えたり、助けたりするのは子供のせっかくの“成長のチャンス”を奪うことになってしまうと思います。失敗して、自分で気付いたことしか本当に身に付いたことにはならないと思います。**私たち大人の役割は、失敗して傷ついた心を癒し、支えることです。**

子供がたくましく、自立できるように私たち教員、保護者、地域の大人が連携・協力して、支えていきましょう。

参考：『癖直さず痛恨エラー…あえて「お前で負けた」挫折経験を素通りさせない“見守り”』